平成２１年度実施　「全国学力・学習状況調査」（第６学年）結果分析表　　４１石神井台小学校

教科	学習指導要領の領域等の結果の分析	観点別結果の分析	内容別・観点別のクロス分析
算数	数と計算 ・基本的な計算（かけ算・わり算・分数のたし算・分数のひき算）の正答率は全国平均・都平均を上回っている。 ・小数の除法の計算では、全国平均・都平均は上回っているものの、正答率が７０％台となっている。 量と測定 ・正答率が算数Ａでは２～３％、算数Ｂでは４～１０％全国平均・都平均を大きく上回っている。 図形 ・正答率が算数Ａでは４～７％、算数Ｂでは５～１２％全国平均・都平均を大きく上回っている。 ・図形の性質や定義についての正答率は９０％を超え、全国平均・都平均を大きく上回っている。 ・図形の性質を基に理由を考える、必要な情報を他の図形の性質を見出すことに課題が見られる。 数量関係 ・平均正答率は全国平均・都平均を上回り、概ね良好であるが、整数の減法と除法の混合計算と基準量と比較量から割合の大小を判断する問題では、正答率が低くなっている。	【数学的な考え方】 ・正答率が５８％と、全国平均・都平均を上回っているものの、苦手な分野であることがうかがえる。 ・情報を整理選択し、筋道を立てて考える問題では、全国平均・都平均を上回っているものの、正答率が３５％と弱点であることがわかる。 【表現・処理】 ・正答率が概ね８０％以上で全国平均・都平均を上回っており、満足できる状況といえるが、百分率やグラフで表すについては６０～７０％程度で、理解がやや不十分である。 【知識・理解】 ・正答率は８２。９％で、全国平均・都平均を上回っている。 ・数量については９０％を超えるものも多いが、偶数についての理解は全国平均を１７％、都平均を９％下回り、大きな課題である。	○単純な計算の処理能力は高いが、少数の除法や整数の減法と除法の混合計算の理解は不十分である。 ○それぞれの図形の特長については十分理解されているが、応用問題に課題が見える。図形の性質について学習したことを基にして、他の図形についても調べる活動を取り入れる必要がある。 ○見方を変えた別の解決方法を考え記述する、筋道を立てて考えるなど、数量関係の数学的な考え方の定着が十分でなく、大きな課題である。